

NDCとしての第一歩

あま市民病院 林 貴靖

はじめに

皆さま、はじめまして。愛知県の西部に位置する、あま市民病院で勤務するNDC 7期生の林貴靖と申します。まず初めにあま市と当院の紹介を少しさせていただきます。あま市は名古屋市から電車で15分程度のところに位置し、利便性も良く、自然も広がる地域です。名古屋市へのアクセスが良好なことから、ベッドタウンとして人気を博す一方で、歴史的にも重要な観光地になっています。さらに古くから続く農業による伝統野菜を活かしたご当地グルメも存在するなど、数多くの魅力を持っています。

あま市民病院は、一般急性期病棟90床、地域包括ケア・回復期リハビリ病棟を合わせた180床に加え、訪問診療や訪問看護を中心に運営しています。平成31年4月から公益社団法人地域医療振興協会による運営開始が始まり、現在は総合診療科に加え、整形外科や泌尿器科、口腔外科などの専門領域も増え、今年度からは循環器内科の診療も始まり21の診療科が稼働しています。

特定ケア看護師を目指した訳

入院中の患者さんの状態変化や、なにかおかしいと感じて「介入が必要ではないか」と考えたときに医師に報告や相談をしたくても、手術や外来などが多忙であり、タイムリーに対応することが難しいことがありました。そんなジレンマを抱えていたときに、他施設からNDCが支援に来てくださり、医師の不在時の初期対応やマネジメント・処置などを行い、医師と看護



管理者兼指導者の梅屋崇先生と

師、患者さんの架け橋となってくれました。働き方を見るうちにNDCに興味を持ち、目指すきっかけになりました。また、私は看護師になってから呼吸分野に興味を持ち、慢性呼吸器疾患認定看護師を取得しました。呼吸ケアチームを多職種とともに立ち上げ、人工呼吸器からの離脱や支援、呼吸器疾患患者さんの退院支援を行っていました。医師や多職種と協働する中で、患者さんの病態や状態の変化をもっと詳しくアセスメントし設定変更や離脱に向けた支援をしていきたいと考えるようになり、特定ケア看護師を目指そうと思いました。

自施設での臨床研修

前年度に自施設での卒後研修が終了しましたが、卒後研修が始まったときには、施設で初めてのNDCであることもあり、指導医や一部の医師・看護師しか、NDCがどんな働き方をするのかが分からない状態でした。まずは自分がどんなことができるのか、どんな働き方をするのか



臨床研修中のPICC挿入

を周知することから始めました。1年間の卒後研修は、総合診療科の指導医の元で入院管理やマネジメント、外科系では、整形外科などの手術助手、麻酔医から全身麻酔の維持管理を含め周手術期管理について学ばせていただきました。手技面ではPICCやAラインの挿入、挿管チューブの位置変更や呼吸器からの離脱、抗生剤の選択など多くの学びをすることができました。全身麻酔の維持は術前の全身状態を的確にアセスメントし、手術の進行による変化を予測しながら鎮痛鎮静剤、昇圧剤の投与量の調整を行うことが必要であり、周手術期管理を学ぶ上で貴重な学びの場になりました。

まだまだNDCとして未熟であり不安も多く、介入がうまくいかない場面も少なくありません。悩むことも多く、自分の力だけでは対応できないこともあり、周囲のサポートをもらい活動できていることに感謝しています。周囲の力に助けられた、この1年の活動の中でも、他の診療科医師からも連絡をもらい、入院患者の対応を依頼してもらえようにもなっています。また、看護師やコメディカルの方からも気軽に相談できる存在として多職種との情報共有ができるようになってきたと思います。さらに当院として次のNDCを目指し、今年度からNDC研修に参加している後輩も出てきました。

診療所研修での経験

診療所研修では在宅診療に同行し、状態悪化の初期対応、褥瘡処置やカニューレや胃瘻交換

や、熱原精査、抗生剤治療など活動する範囲は多岐に渡りました。手技的なものだけでなく、医療者は患者、家族の支援者として、その人の価値観や思い、家族の願いを引き出すコミュニケーション能力や多職種をつなぐ能力が必要であると実感しました。そして、医療倫理、コミュニケーションなどの技法を活用することで、価値観の共有を図り支援者としての役割を果たすことが必要だと感じました。この経験を活かしながら在宅復帰する患者・家族へのケアの充実や、当院在宅領域での活動を視野に入れ活動していきたいと考えています。

終わりに

臨床研修が終了しNDCとして第一歩を歩み始めていますが、活動に理解していただいている管理者をはじめ、医師・看護部・多職種の方の協力を得て初めて活動ができる役割であると実感しています。今年度からは引き続き整形外科をメインとした外科系患者さんの病棟管理や初期対応、手術助手を行っています。また、呼吸ケアチームでは人工呼吸器の設定の変更や、離脱に向けた支援を実践しています。今後はさらに自己研鑽を継続しつつ、今年度はRRSチームの立ち上げなども行っていく予定です。今後も周囲の尽力いただいている方への感謝を忘れず、多職種と協働して、患者さん、地域の方々のお役に立てるよう精進していこうと思います。



麻酔医・手術室看護師の仲間と